

未知と触れ合う愉しさにかなうものはない。来たれ、好奇心旺盛な学生たち!

海洋生物学研究室では、魚類の分類学、形態学、系統学、そして高知県を中心とした魚類相に関する研究を行っています。分類学では浅海から深海まで、様々なグループの魚類を分類学的に検討し、時には新種や日本での未記録種を発見することもあります。また、比較解剖による骨格や筋肉、神経系の形態観察から、魚類の系統進化を考えています。さらに、魚類相の調査をもとに種多様性の解明に取り組んでいます。これらの研究には標本が必要不可欠であり、自然史博物館と同様に標本の採集や作成、維持や管理を継続して行ってきました。現在では日本有数の魚類標本コレクションとなり、国内外の多くの研究者に利用されています。

1929年の蒲原先生の研究室誕生から86年...
歴史のある研究室なのです。



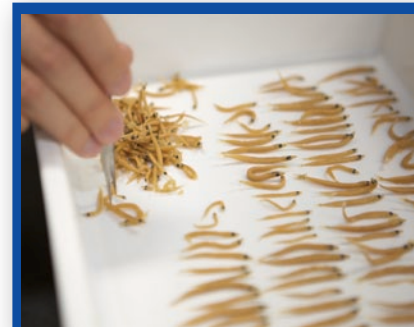
◀ホルマリンで組織を固定した標本は保存液のエタノールへ移す前に、一度水洗してホルマリンを抜く。



オオセと日本で
採集された唯一!? の
ツマグロ
(サメの仲間)

標本数、実に20万!!

▲理学部自慢の標本庫
全世界で魚類は約33,000種程度の生息が確認されている。
一年間に300~400種が新たに発見されている。



イカナゴの数を
数える...ん...
根気との勝負!?

▲▼水曜の午後は、未整理の標本をソーティングし、同定と登録を行い、それぞれの科の棚へ収納する作業が主体。



Profile

高知大学理学部 生物科学コース 教授
遠藤 広光 Hiromitsu Endo

1990年 高知大学大学院 修士課程修了
1995年 北海道大学大学院 博士課程修了
1996年より高知大学理学部に勤務

こんにちは、遠藤 広光です。

私は福岡で生まれ、千葉と北海道で育ちました。
高知大学、北海道大学を経て高知大理学部に
帰って早や20年...うむ...感慨深いですね。



▲深海魚の三脚魚(オオイトヒキイワシ)...長く伸びた3本のヒレを使って海底上に立ち、流れてくるエサを待つ。眼はほとんど退化している。

夏場は、沖の島でスキューバ、
冬場はローテーションで
御置瀬の底引船の手繰り網を
チェックに出掛けたりも。

20名の学生さんたちが研究を続ける海洋生物学研究室。
誰に聞いても「アットホーム!」という答えが返ってくる。